

日衛連

JAPAN HYGIENE PRODUCTS
INDUSTRY ASSOCIATION

発行/社団法人 日本衛生材料工業連合会

紙おむつNews

No.40

2002.4

特集

Feature Articles

「こどもの城」小児保健クリニック 巷野悟郎先生に聞く「育児と紙おむつ」

赤ちゃんとお話する時間を大切に

わが国で乳幼児用紙おむつの普及が本格的に始まったのは昭和50年代からでした。

核家族、共働き、少子化という時代の流れの中で、お母さんの育児に必要な家事労働を大幅に軽減し、母と子の新しいふれあい時間をもたらす紙おむつは、お母さんに受け入れられてきました。

しかし、一方では、いまだに紙おむつを使うことは子供への愛情が不足するのではないか、おむつ離れが遅れるのではないかと心配しているお母さんからの相談が小児科医に寄せられているとか。東京・青山の「こどもの城」小児保健クリニックの悟郎先生に、現代のお母さんの子育てと紙おむつについてお話を伺いました。



こどもの城・
小児保健クリニック
巷野悟郎先生

略歴

1944年、東京大学医学部卒業。小児科医・医学博士。
こどもの城・小児保健クリニック院長、日本保育園保健協議会会長
著書：「新・小児保健」、「小児科医からママの手紙」、その他多数

● 誰のために紙おむつはある？

犬が散歩の途中で小分けして排尿するのはよく見かける行動ですが、これは臭いをつけて、自分の縄張りを他の犬に知らせるためです。その逆に、糞の存在を敵に知られないようにするため、糞の中では排泄しません。

人間の赤ちゃんは、起きていても寝ていても排泄をします。これは、人間は他の動物に比べて大変未熟な状態で生まれてくると、長い歴史の中で家の中では野生動物のように「生命を脅かされる心配がない」とDNAが記憶してい

るためです。

さて、赤ちゃんがするおむつは誰のため、ということを考えてみましょう。

赤ちゃんにとってはおむつを使わないほうが快適です。しかし、文明社会では家の中でどこでもかまわず排泄をされたら、私たちの生活は成り立ちません。そこでおむつを使うのです。おむつを使うことは、決して赤ちゃんのためではなくお母さんや家族のためなのです。



戻る

進む

● 赤ちゃんからのサインに敏感に

日本でも現在のようにおむつを使うようになったのは、明治以降のことです。中国ではいまでもおむつを使わず、下には何にもつけないで股の割れたズボンを履いています。では排泄はどうするのか心配です。それを解決しているのが「お母さんの赤ちゃんに対する心配り」なのです。

赤ちゃんは泣いたり、顔をしかめたり、震えたりしてお母さんに排泄のサインを送ります。お母さんはこのサインにいち早く気付いてサツ

とトイレに連れて行く。これでおむつを使わなくても大丈夫なのです。いつもお母さんが赤ちゃんの変化に目を向けているからできることです。

おむつは赤ちゃんのためのものではないことは前述しましたが、かといって今の私たちの生活では紙おむつはやはり必要なものです。赤ちゃんのおむつ生活をできるだけ快適なものにしてあげるために、赤ちゃんから発信される「排泄」のサインを理解して、早めの対応をとってあげるのがお母さんの役目ではないでしょうか。

● 便利な育児用品・紙おむつ

赤ちゃんからのおしっこのサインをお母さんが見落とししたとします。布おむつだったら、赤ちゃんのお尻は尿で濡れた布おむつで包まれたままになります。しかし、現在の紙おむつは、おしっこをしても吸水材が吸収するので、肌と接している部分はいつもサラツとしてます。赤ちゃんにとっては、気持ち悪いことはありません。2~3回のおしっこなら吸収でき、しかも漏れません。布おむつとの大きな違いでしょう。

しかも成長過程に合わせて、テープで止める

ものや、下着のように履くタイプなど、いろいろなメーカーからたくさんの種類が出ていて、成長過程や体型で最適なものを選ぶことができます。よくできているなと思います。

お母さんにとっても、おむつを洗濯したり畳んだりという大きな仕事からも解放されるわけです。紙おむつがもたらした赤ちゃんにとっての快適さ、お母さんの省力化への貢献を考えたら、今から布おむつに戻るなどということは到底考えられません。

● 紙おむつ使用が手抜きではない

お母さんの集会やクリニックに来られたお母さんから「紙おむつを使うのは育児の手抜きにならないでしょうか」とよく聞かれます。また、「おむつ離れが遅くなりませんか」という質問もあります。

育児で一番大切なことは「愛情」でしょう。愛情とはイコール「いつも赤ちゃんを気にしている」ということ、赤ちゃんの変化を見逃さずに的確に対応してあげるといことです。

紙おむつが漏れにくく、おしっこをよく吸収するからといって、一日に3回しか赤ちゃんのお

尻を見ないというのでは愛情不足といわれても仕方ありません。少なくとも「いまおしっこをしたな」くらいは気付いて欲しいですし、気がついたら赤ちゃんに「おしっこが出たの？」等の言葉はかけて欲しいものです。大切なのは赤ちゃんと対話する姿勢ではないでしょうか。

お母さんが相談してくる「手抜き」とは、紙おむつを使うことではなく、紙おむつにすべてをまかせて、赤ちゃんの変化を見逃してしまうお母さん自身の問題なのです。

● 特別な「排泄のしつけ」はいらない

育児の中で、もう一つのお母さんの大切な役目は「しつけ」です。

子供も2歳近くになると、お母さんの言うことがだいぶ理解できるようになります。最近のお母さんの中には、子供に話しかけずに黙々とおむつを取り替えている人がいますが、排便後にお尻をキレイにするときには、「汚いからきれいにしましょう」といいながらおむつを取り替えてあげる、これが大切だと思います。

この頃になれば、こどもが排泄のサインをし

たら、すかさずトイレに連れて行くことです。しらすら子供は排泄は汚いもの、トイレでするもの、ということが身についてきます。自然におむつ離れのしつけが出来ていくわけです。無理に「おむつ離れのためのトレーニング」をする必要はないと思います。

「おむつ離れ」が遅くなるのも紙おむつを使うからではなく、何でも紙おむつまかせにして、子供への「心配り」を手抜きしたお母さん自身に問題があります。

● “便利”を積極的に取り入れ、“愛情”を注ぐ時間を作る

紙おむつを使うことは育児のテクニックの問題で、布おむつに比べれば格段に便利です。そして便利なものを使って赤ちゃんへの負担を少なくすることは決して悪いことではなく、むしろ積極的に取り入れるべきでしょう。しかし、どんなに便利なものができても、それを使うときのお母さんの心は、昔も今も、そしてこれからも同じです。便利さで生まれた時間を子供との人間的なふれあいのために使ってはいかがでしょうか。

夜中の授乳や病気など、育児はお母さんに多くの負担がかかります。それでも子供への愛情と、成長を見守る喜びがあるからこそ、それに耐えられるのです。

育児のテクニックの部分では便利なものをどんどん取り入れる。それは、決して手抜きではありません。

心の部分では赤ちゃんをよく見守り、人間としてのふれあいを大切にすること。愛情をもって接することが大切なのです。



最後に、紙おむつを使っているお母さんにお願ひしたいのは、マナーを守ることです。当クリニックのトイレなどに、取り替えた紙おむつをそのまま院内においてしまうお母

さんがいます。便はトイレに流して、紙おむつは丸めて持ち帰るというマナーの徹底をお願いしたいですね。

「おむつ」と「おしめ」はどう違う？

赤ちゃんの「おむつ」は「おしめ」とも言います。どう違うのでしょうか。

広辞苑を引くと、「おむつ」は漢字で「御襦褌」と書きます。では、「おしめ」というと、これも同じ漢字の「襦褌」でした。おむつの方が“御”が付くだけ丁寧語のようです。

では平凡社の大百科事典を紐解いて見ましょう。

「おむつは『襦褌（むつき）』に由来する」とあります。「褌」は身体を包む布、「襦」という字はそれを縛るひものことです。つまり「襦褌」とは、もともと生まれたばかりの赤ちゃんをくるむ布をさす言葉でした。むつきには身体全体をくるむ大きいものと、股間を包む小さなものの大小2種類がありましたが、やがて身体全体をむつきで覆う習慣がなくなり、股間を覆うものだけが排泄を処理する目的で残ったのです。

一方、「おしめ」は「御湿」とも書くように、「湿し」の女性言葉といわれています。排泄を自分の意志でコントロールできない乳幼児や、高齢者が排泄の始末のために股間に当てる布や



紙のことをさしています。

おむつ、おしめ以外の言葉では、地方や年代によって「しめし」、「しみし」、「むつき」と呼ばれてきました。

ちなみに日衛連では「紙おむつ」で統一しており、会員各社の紙おむつ製品のパッケージに記されている品質表示の品名欄にも「紙おむつ」と記載されています。

ミニ乳幼児用紙おむつ史

紙おむつは、第2次世界大戦下、ドイツの侵略で経済封鎖され極端な綿布不足となったスウェーデンで生まれました。吸水性のある紙を何枚も重ね、外側をメリヤスの袋で覆ったもので、布おむつと同様おむつカバーと一緒に使われていました。

一方、ほぼ同じ時期にアメリカでは、おむつカバーのいらない、現在のテープ型の紙おむつの原型が考案されています。

日本では布おむつと同じような長方形の紙おむつがありましたが、出産祝いのベビー服を箱に入れるときのかさ上げ用、などと酷評されるほど実用的ではありませんでした。

1963年（昭和38年）に、今日の紙おむつに近い構造と機能を持った、国産紙おむつが発売され、日本航空の国際線常備品に採用されました。しかしこれも「もったいない」「母親の愛情が子供に伝わらない」「怠け者」など、布おむつで

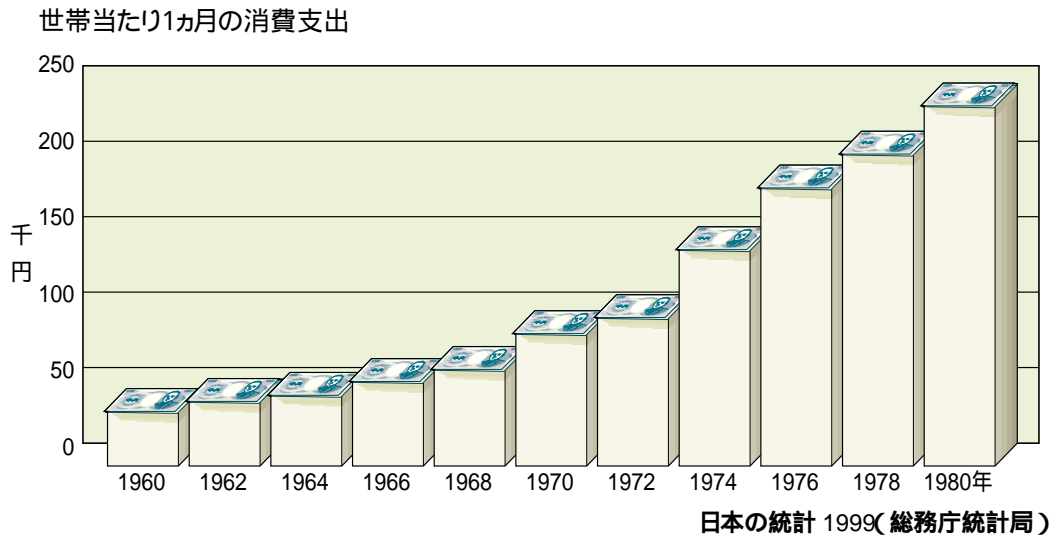
子供を育てた世代の女性からの批判的な声が多く、相変わらず出産直後や外出時などに止まっていた。



日本で紙おむつが普及し始めたのは昭和50年代からです。1977年（昭和52年）10月にアメリカから乳幼児用のテープ型紙おむつが輸入され、テスト販売がはじまりました。最大の特長はおむつカバーがいらないことでした。

1981年（昭和56年）8月には初めて国産のテープ型紙おむつが発売されました。それ以降、多くのメーカーで紙おむつが生産され、本格的な普及がはじまったのです。

同じ頃、働く女性の数は急上昇し、1975年（昭和50年）1,170万人、1980年（昭和55年）には1,350万人と増加していきました。共働きによって世帯の所得が向上する一方で、家事の省力化が必要な時代に入っていたのでした。



おむつの洗濯、乾燥、整理は、育児の中でも一番時間のかかる仕事です。お母さんにとって、おむつカバーが不要で、洗濯がいらぬ紙おむつは、大変に魅力的なものだったのです。

この頃の紙おむつは、肌に接する「表面材」と、尿を吸収する紙・パルプ主体の「吸収体」、おむつカバーの役目をする「防水材」の3つで構成されており、1枚当たりの重量は平均して53グラムでした。

1983年(昭和58年)11月、高分子吸水材を採用し、それまでより薄型で格段に高い吸収能力を持った紙おむつが発売されました。米国で開発された高分子吸水材は、純水で自重の200～1000倍、尿で30～70倍と、脱脂綿や吸水紙、パルプ等の10～20倍に比べ飛躍的に吸水能力を持っています。一度吸収した水分は、外から圧力を加えてもほとんど漏れないという特長を持っ

ています。

高分子吸水材を使った紙おむつは、吸収体・綿状パルプの使用量が大幅に減り、1枚の重量も40グラム前後と軽く、薄型になりました。紙おむつの吸水性能が向上したことで、1日の使用枚数も1982年(昭和57年)頃の平均7～8枚から、現在では5枚前後にまで減りました。

その結果、パルプなどの省資源に貢献、使用枚数の減少とあいまって、ごみ量も大幅に減らすことにつながりました。そのうえ、薄くてコンパクトな高分子吸水材入りの紙おむつは、装着感が向上し動きやすくなるなど、赤ちゃん自身にも多くのメリットをもたらしたのです。

現在では、成長過程とニーズに合わせて選択出来るよう、フラット型・テープ型・パンツ型などの紙おむつが用意され、お母さんの育児をお手伝いしています。

紙おむつ・ライナー生産数量（日衛連調べ）

単位：トン、千枚

			平成12年		平成13年		平成14年						
			年計	前年比%	年計	前年比%	1～3月	前年比%	4～6月	前年比%	7～9月	前年比%	
紙おむつ	大人用	(パンツタイプ)	テープ型 千枚	250,459	106	234,150	93						
			テープ型 トン	30,944	106	28,314	92						
			パンツ型 千枚	243,163	107	270,670	111						
			パンツ型 トン	20,213	127	21,921	108						
			合計 千枚	493,622	107	504,820	102						
			合計 トン	51,157	110	50,235	98						
		フラット型 パッド型その他	千枚	412,902	97	364,913	88						
			トン	28,250	98	25,552	90						
			千枚	1,409,988	100	1,358,063	96						
			トン	55,058	105	53,104	96						
			合計 千枚	2,316,512	101	2,227,796	96						
			合計 トン	134,465	105	128,891	96						
	乳幼児用	(パンツタイプ)	テープ型 千枚	3,547,157	93	3,289,980	93						
			テープ型 トン	127,843	90	118,555	93						
			パンツ型 千枚	1,904,663	104	2,156,438	113						
		パンツ型 トン	77,872	100	95,926	123							
		合計 千枚	5,451,820	97	5,446,418	100							
		合計 トン	205,715	93	214,481	104							
合計	千枚	7,768,332	98	7,674,214	99								
	トン	340,180	98	343,372	101								
ライナー	千枚	120,625	93	101,055	84								
	トン	191	90	160	84								

*枚数については、平成2年4月から発表 *大人用3分類別表示は、平成5年1月から発表 *大人用4分類表示、乳幼児用2分類表示は、平成10年1月から発表

寝たきりの人のおむつ代は、確定申告すると医療費控除が受けられます

昭和63年1月からおむつ（寝たきり用）は、医療費控除の対象になっています。控除を受けるためには、医師の発行する「おむつ使用証明書」 使用者の名前とおむつ代であると明記した「領収書」が必要です。詳しくは病院・医院、または税務署、市区町村役場にお問い合わせください。

紙おむつ・生理用品・衛生材料に関するご質問ご意見お問い合わせは下記へ

社団法人 **日本衛生材料工業連合会** 〒171-0033 東京都豊島区高田3-36-12
 電話 03-3971-0452 FAX. 03-3983-3403



戻る トップ頁へ